

かなざわ ボランティアセンター通信 第12号

～コロナに負けるな！つづいていくボランティアの輪～

厳しい社会情勢の中でも、ボランティアとして頑張ってくださいっている方々に、その思いを伺いました。



柏木 日出子さん
(院内介助ボランティア)

今年の抱負
健康に気をつけながら、
依頼にこたえていきたいです

4年前から、院内介助ボランティアとして活躍されている柏木さん。年齢の節目を迎え、何か動きたいと思ったときに、ご近所に病院ボランティアとして長年活動されている方がいたのが活動のきっかけとのことでした。このコロナ禍においても通院は欠かせないもの。院内介助のニーズは、例年同様に寄せられています。ご自身にとっても厳しい状況の中で、依頼を引き受けてくださったお気持ちをお伺いすると、「誰かがやらなくてはならないと思った」と柏木さん。「活動の経験が増えてきて、介助の最中だけでなく街中でも声を掛けるタイミングが分かるようになってきた」「一言通じ合うだけで、お互い喜びになるし、心豊かになる」と、にっこりと笑顔でおっしゃってくださいました。

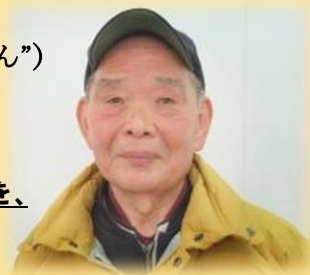
亀井 佳子さん (傾聴ボランティア)

今年の抱負
活動のためにも自身の健康維持に努めます

昨年7月から傾聴ボランティアとして活動して下さっている亀井さん。コロナ禍に入る前までは、高齢者のデイサービスのボランティアとして活動されていました。ボランティアを始めたきっかけを、「1回きりの人生、色々なことをやって視野を広げたい」「自身の健康維持のためにも、そして誰かの役にも立てれば」そうおっしゃられました。コロナ禍の活動を振り返ると、「活動しても良いものか心配だったが、できることがあるならば応えたいと思って、感染症対策をしながら活動しました」とのこと。未だ先の見えないコロナ禍が続き、デイサービスのボランティア活動も休止のまま。「コロナが1日も早く収束して、デイの皆さんとお会いしたいです」「長生きされている方々とお話は、自分のこれからの人生のためにもなるのを感じるんです」と亀井さん。今後もその柔らかなお人柄で、ご高齢の皆さんを見守っていただきたいと感じた区社協でした。

斉田 宗平さん
(男性ボランティア金沢“助さん”)

今年の抱負
やってきたことでできることを、
進んでやっていきたいです



「色々なことをお手伝いしたいです」そうおっしゃってくださいました斉田さんは、これまで送迎ボランティアや、地域の美化委員など、様々なボランティア活動を行ってこられました。「人と関わるのが好きなんですよ」と、にっこり。コロナ禍でも草取りボランティアをはじめ多くの依頼を引き受けてくださったお気持ちを伺うと、「ボランティア活動は元気でいられる秘訣でもある」「コロナで依頼が減ってしまってさみしいと思う」「色々な方と関われるのは幸せなことだから、今後もやれるだけのことをやっていきたい」とおっしゃってくださいました。やれる限りのことをいつも考えてくださる、斉田さんのまっすぐで温かなお人柄が垣間見えました。

谷口 由美子さん・由井 敦子さん
谷口さん (年賀状代筆ボランティア)



今年の抱負
活動のためにも、自身の
体調管理に努めます

ボランティア活動歴が、なんと谷口さんは17年、由井さんは16年にもなるお二人。「誰かのために！という感じではなく、書くことが好きでただただやってきたんです」そうおっしゃられたお二人は長年に渡って、視覚障がいの方の年賀状の宛名とひと言書きの代筆という活動をしてくださっています。「年賀状を書いていると、依頼者さんと一緒に1年を振り返り豊かな気持ちになることができて、毎年楽しみなんです」と由井さん。コロナ禍でも依頼を引き受けてくださったお気持ちを伺うと、「ほんとうにたんたんと続けてきただけなんです」とにっこりされた谷口さん。普段は依頼者のお宅で行う代筆作業も、今年は密を避けるためにそれぞれのお家に持ち帰って作業をしてくださいました。そんなお二人は、「金沢こだまの会」の拡大写本グループに所属されています。

※なお、院内介助ボランティア以外の活動は、緊急事態宣言下においては休止しておりました。

金沢区ボランティアセンター TEL: 045-784-2222